

市民参加を推進する！市民トークセッション①

こども・若者が市政に関心をもつには？教育はどう関われるのか？

こどもや若者が自分の住むまちの市政に興味をもったり、自分なりの意見を考えたり、実際に発言できるようになるには、どんな教育や大人の関わり方が重要か？

子どもの想いと地域の人の想いを重ねること

地域のやりたいことであれば、Win-Winで地域教育ができる

学校外学習、地域教育

大人が子どもから学ぶこともある

子どもと大人が尊重しあう関係を築く

こどもと大人の学びあい

くらしと市政をつなげる

日本は政治の話がタブーになっていないか興味がないのではなく、発信の方法がわからないのでは？話す場がないのでは？

親のための政策で子どものための政策がないのでは

若者、こどもは興味がない、と一括りにしない

子ども・若者の自己決定

失敗を含めてチャレンジを応援する。学校では難しいところもあるかも

子ども・若者が今モヤモヤしていることに取り組みるといいね

市政参加をすることを子どもや若者が自己決定できると良い

子ども・若者のモヤモヤが、市政につながっていると感じることができるだろうか？！

子どもたちのニーズに応えることを、意外と大人がやってくれていると知ってもらおう

大人が楽しく取り組む様子にこどももまごぞる

学校で学ぶことと、家庭の親のあり方のギャップ

井口さん：予備校から中学教員へ（社会科）。記憶に残る授業ができていたのか？学園祭のような授業を目指して、生徒が考えてムーブメントを起こす授業を実施。

発信に工夫を。長文は読まないよね

エンタメ要素

竹田さん：市内7ヶ所にあるユースセンター。カリキュラムや獲得目標がない中で、シチズンシップ=自分で物事を選ぶ体験づくりを大切にしている

シチズンシップ教育とは？
一人の市民として社会に参画できる資質・マインドを養う教育
・シチズン=市民
・シップ=形作る

まず大人が地域や市政に関わっていて、それを子供が見て学べる環境

裁判の傍聴。傍聴の目があることの意味を実感できた

ボランティアよりも、してもらった経験が、心に残る。夏祭りとか

参加してよかったなと思える経験

参加した後のフィードバックがあるか

自分たちの意見が市制に反映されている、形に残っていることを実感できること。

もっと使ってもらいたいです。もっと意見を出される？

多様な大人との出会い

面白いと思える大人に出会えるか？

大人の子どもとの共通体験

座学じゃなくて方法を考える

ふに落ちるような体験

（予算編成方針もふくめて）基本計画を教科書に授業を

パブリックコメント募集は動画で

京都市民版人生ゲーム

<楽しみながら>京都の問題について知って、ゲームの中で解決したり、市政参加していきようなゲーム

同志社大学の授業で伊藤さんが作ってるよ！

ユースカウシルも、右京区を舞台にしたボードゲームを作ってるよ！

ミスできる力を育む

一歩を踏み出す力を支える

逆算的に発想する力を育む

SDGsは、実現したい未来から逆算してアクションするという考え方。基礎から実践という学習の流れと異なる

子ども・若者とともにつくる

権利としての「参加の場」が開かれる

学びながら考え発信できる仕組み

モヤモヤから実現したい未来を描き、そこに向かっていくためには何を学ばないといけないか？という動機付けをすれば、モヤモヤと市政がつながるのでは？

子どもたちにとって共感性の高い、ひらかれた場

コロナ禍の学びの場について、子どもに聴くことができてなかった

子どもは教員にモヤモヤを言えない。でも、SNSでハッシュタグをつけて投稿してもらおうと、たくさん意見が出る

短文で意見を言う能力が養われている！